

令和元年度 第 11 回 昭島市社会教育委員会・要点録
-----------------------------

開催日時／会 場 令和 2 年 2 月 20 日（木）午後 7 時 00 分～9 時 00 分 昭和会館  
出席者 谷部議長、中村副議長、齋藤委員、長瀬委員、稲垣委員、濱田委員、  
松本委員、吉村委員  
欠席者 佐伯委員、二ノ宮リム委員  
事務局 来住野社会教育主事

## 1 開 会

＜配付資料＞

- 資料 1 第 30 期テーマについて
- 資料 2 第 4 回市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議アンケートまとめ
- 資料 3 令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第 2 回理事会次第 他
- 資料 4 成年年齢引き下げによる成人式について
- 資料 5 1 月の社会教育関係諸行事の実施結果について

・公民館だより No. 196

・社教連会報 No. 86

## 2 議 題

### （1）昭島市健康づくり推進協議会の推薦について

※推薦者を決定

### （2）第 30 期テーマについて（資料 1）

議 長 これまでもいくつかのキーワードが出てきていたので、それらを踏まえながらテーマを検討していきたい。

委 員 先日「あきしま会議は次のステップに進まなくてはいけない」という話が出ていて、あきしま会議の次の段階とは何かについて考えてみたい。

委 員 あきしま会議のテーマ「市民のニーズを活かす・つなげる」の中で、「つなげる」についてはかなり達成できているかと思う。「ニーズを活かす」については、市民のニーズがあきしま会議の中でどのように活かされているか、なかなか見えてこない。ただ自分たちは狭い市民のニーズなのかもしれないが、あきしま会議に参加されている人たちの話から、「対話の文化にふれる」「青少年に有用感を持たせる」必要があるというニーズを捉えてきたので、これらのニーズをあきしま会議に出てくる団体に必要な性についてどう考えているかなどを投げかけて、さらにそのニーズや現状を把握し、来期につなげてまとめてはどうか。今期は調査研究までとし、昭島市をよりよくするために多様な文化に触れるということにもつながっていくのではないかと考える。あきしま会議の参加団体は、子どもに関わっているところが多い。大人もだが子どもが対話に触れる機

会として、活動にかかわっている子供たちにどう考えているのか、何か工夫をされているのかを聞いてみてはどうかと思う。

事務局 関わってくれている子供に参加してもらい、一緒に活動してどうなのかというところを話してもらいたいと考えている。

委員 来年度、再来年度と学習指導要領が変わる。特徴的なのが「話し合う」というキーワードだ。いろいろな場面で子供たちに話し合い活動を取り入れて、自ら進んで課題を解決するような生徒を育てることを目指すものだ。子供たちにいろいろなねらいをもって話をさせても、最初は会話でしかない。対話というのは非常に難しい。世の中や社会教育委員の皆さんが目指していることと一緒に、学校もやっていけると思うので、対話の場を学校だけでなく、地域でも社会でも取り入れてくださることで、社会に開かれた教育課程が昭島で実現するのではないかと考える。

委員 学校であきしま会議をやってみたいとも思う。

委員 子供たちにしてみれば、先生は先生だ。信頼できないということではなく、畏れ多いというような立ち位置で「相談できない」と思っているところがあるのかもしれない。

委員 多忙さにゆえに子供たちと関わる時間が少なくなっていると感じる。

委員 子供たちも、先生の立場を理解しているから近寄りがたくなっているのかもしれない。だから、あきしま会議のように、先生とも親とも違う大人たちに自分たちの思いをぶつけてみて、果たしてどんな答えが返ってくるのかを聞いてみたいと思って参加してくれたのかもしれない。

委員 先生や親に叱られると感じて思っていることが言えない時に、子供の意見に対し感情を乱さずに聞いてくれる大人という存在は、子どもにとってありがたいだろう。そういう想いで学習サロンをやっているが親が忙しくて、子供たちが悩みをぶつけられない状況だと、どこかで聞いてくれる人がいないと、心のもやもやの色が濃くなってしまう。どこかで、自分のことをあまり知らなくていいけれど、話を聞いてくれる大人の存在が必要なのではと思うし、あきしま会議はそういう場でもあったと思う。

委員 家庭や学校では否定される部分もあると思う。なんでもいいから言える場所、周りの人が聞いてあげる場所が必要なのではないか。間違ってもいい、意見は意見として言える場所、気楽な場所が必要だ。心の居場所づくりは大切だと思う。

委員 親でも先生でもない大人の存在が必要だと思うし、大人に頼ってよいことを知ってほしい。地域の大人に頼ってよいことを知らないと子供たちも頼れない。社会教育でできることとして、地域の人やサークルの大人たちといかに小さい時から関わっていくかというのが大事だと思う。

委員 参加していた大学生は、子どもの貧困や経済格差に興味があるようだったが、あきしま会議で外国籍の方への日本語支援をされている方のお話を聞いた時に、初めはピンとこなかったようだった。「いつか教員になって、受け持ったクラスでそういう子に出会ったときに、地域にどういうツールがあって、子どもたちの支援ができるかということを知れてよかったね」と言うと、ようやく自分の関心と他者の活動が結びついたようだった。そういう意味で、あきしま会議はうまくつながっていける。つながるということ

はできている。あきしま会議に来てくれている人は、自分のニーズが本当は何かわからず来ていて、自分のニーズと話が結びつかないままになっている人もいるかもしれない。ニーズを知るというのは難しい。自分の興味関心と他者の活動が結びつかないこともある。

事務局 話をしているうちに自然と出てくる場合もあるし、他者からの質問でようやく自分がどうしたかったのか気付くこともある。

委員 自分がこうあるべきという理想の姿を追いかけるだけでは、本当は評価されたいのだと思うが、それと、自分の活動がどう結びつくかに気付いていただけなかったケースもあった。自分の能力を伸ばすことだけが目標になっている場合もあり、自分自身で気が付いているニーズと気付いていないニーズがあるのだと思った。そういう内なるニーズをどうあきしま会議で引き出すか。

委員 車人形の会の方の話を聞いたが、車人形というのは、人形を操作する人の動いた通りに動くものようだ。それを子供たちが黒子になって顔を見せないが、思った通りに動かせることを喜ぶそうだ。今小学生の子供たちにこの伝統芸能を伝えて、将来またやってみたいと戻ってきてくれればと思っているとのことだった。それを聞いた別の方が、シニア世代の子供、つまり 50 代の引きこもりの問題があるが、そうした体験によって精神的な開放ができるのではというようなことをおっしゃっていた。あきしま会議でなければ、そういう話のつながりはできなかったと思う。今まで 4 回のあきしま会議をやって、じわじわと結果が出始めていると思っている。

委員 今回提示されているテーマ案の中では、「対話から地域力を育む社会教育について」というのが、よいと思う。

議長 では次回、建議の骨子を出せるようにしたい。

## 報 告

### (1) 第 56 回東京都公民館研究大会について (2/1)

議長 2 月 1 日に昭島市で開催された第 56 回東京都公民館研究大会に参加した。午前は、東京大学名誉教授の佐藤一子氏の基調講演だった。来期の東京都市町村社会教育委員連絡協議会総会の際に、この先生の基調講演が予定されている。午後は、4 つの課題別集会のうち、第四課題別集会「公民館講座受講後の活動の継続と発展～学びを超えて、さらなるステップアップ～」に参加した。助言者は東京学芸大学准教授の倉持伸江氏で、町田市「ゆるっとママ」と小金井市の NPO 法人「こがねい子ども遊パーク」の事例報告があった。倉持先生からの問題提起のあと、グループ討議を行った。東京都公民館連絡協議会への加盟市は現在 11 市ということに驚いた。

### (2) 令和元年度社会教育関係委員研修会について (2/14)

議長 公民館運営審議会主催で行われた研修会について参加された方から報告をお願いしたい。来年度は社会教育委員会議が幹事となるので、来期の委員の皆さんに引き継ぐこととなる。

- 委員 各委員会の紹介のあとに、何か意見交流があるのかと思っていたが特になかったので残念だった。社会教育についての講演のあとグループ討議となったが、時間が短くゆっくり討議することができなかったのも、意見交流に時間をかけてもらいたかった。
- 委員 同意見だ。むしろ社会教育についての講演をもう少し聞きたかった。
- 委員 公民館運営審議会の中で議論されたものを提示してもらって、グループ討議をした方がもっと内容を深められたと思う。
- 委員 私のテーブルでは、そもそも公民館とはどういう施設なのか、公民館運営審議会委員の役割は何かなどに終始した。
- 委員 グループの中で話がしばらく雰囲気になってしまったのが残念だ。ファシリテーターには話を聞く姿勢も大事だと思った。
- 委員 何を話してよいのかわからず困った。懇親会でももう少しテーマをもって意見交流できればよいと思った。
- 議長 来年度の研修会は、皆さんからの意見を活かしていきたい。前回社会教育委員が企画した際のワークショップ「ある村の出来事」は、研修会後の別の会合でも参加者からその話題で話しかけられるなど、皆さんの心に印象を残したようなので、そうしたワークショップを検討していきたい。

### (3) 市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について (2/16) (資料2)

- 議長 皆さんの方から意見をお願いしたい。今回は中学生2名と大学生の参加もあった。若い人たちの参加があったのはよかった。
- 委員 アンケートを見ると、つながりを得られたとか、他のグループの活動を知れてよかったという感想が多い。私は中学生の報告者のグループだったので、普段我々が学校へ赴くことがない中、中学生の話を聞くことができ、自分が関わっているボーイスカウト以外の子供たちの様子を知ることができた。今後、あきしま会議を通して昭島をよりよくしていく方向に話を進められたらよいと思う。
- 委員 グループの中で、はじめに「社会教育委員とは何か」というご質問があった。参加されたサークルの方は、あきしま会議の趣旨をあまり理解されていなかったのかもしれないと感じた。我々のグループでは、いい意味での意見交換ができたと思う。他の活動とリンクするところもあり、お互い助け合い、認め合っていけばよいという話になった。アンケートを見ても、会の目的をかなり達成していることを感じられる。
- 委員 中学生が聞き手として参加された。積極的に質問をしてくれ、最後グループの発表も引き受けてくれた。非常に面白かったと感想を述べてくれた。あきしま会議が定着して来れば、「若い人たちのあきしま会議」も将来的にできるのではないかという期待を持った。
- 委員 第1回目からずっと報告をしてくださっている方の報告を聞いた。自分自身その方の報告を聞くのは2回目だ。発表の中心になっていることは変わらないが、報告者自身のご自身の活動の変化を実感しているとおっしゃっていた。特に生涯学習サポーターの活動に対し、ご自身が役に立っていると思えるようになっているようだった。報告者へも

メリットがあるのだと感じた。

委員 報告者としては1名だったので、あとは参加者の方からお話を聞いた。やはり「社会教育委員とは何か」というご質問が最初にあったので、趣旨説明の際に説明をした方がよいと思った。参加者の中には、あきしま会議の趣旨を理解されていなかったためにご自身のサークルの勧誘活動ができる場だと誤解もあったようだったので、改めて趣旨説明をしたということもあった。自己啓発を活動の主たる目的とされているグループにとって、現在の学びを今後昭島の中でどのように活かしていきたいかという質問を投げかけてみたところ、「職場で活かしている」という回答だったので、社会貢献という感覚は意外なものだったようだ。大学生の方は、人の話を聞くことがよくできていて、自分の考えを言葉にして人に伝えるのは苦手だということだったが、よく発言してくださった。ラウンドテーブル後の情報交流の時間は、皆さんとてもよく交流されていたのでよかった。

委員 「社会教育委員とは何か」という質問に対し、自分たちでは自明のこととして捉えていたが、そうではなかったとわかった。最初に共通理解を持っていただくことは大事だと思う。あきしま会議がどういう会か、今後も何度も話をしていく必要がある。グループの話し合いは活発だった。自分の夢や想い、質問を出してくれたと思う。何か名刺交換的なこともして、その後につなげることもできるのではと思った。

議長 私のグループでは、いろいろな意見がたくさん出たのでとてもよかった。いろいろな情報交換もできたこともよかったと思う。

事務局 私のグループでは、活動の報告をしていただいた後に、今の活動を通してどうしたいかを尋ねたところ、自分を社会で役立たせたいとおっしゃった。それはご自身がこれまで明確に意識していたことではなく、むしろ思いもよらない発見だったようだ。また、定年退職後、ボランティアを始められた方に「なぜボランティアを始めようと思ったのか」を聞いてみたところ、時間的余裕があること、自分を社会の中で活かしたいと思ったからとおっしゃり、それを聞いて、さまざまな活動に積極的に関わっている方から、「いろいろなことに参加し社会とつながっていると、現役で働いていた時より現在の方が忙しくなってよい。」とおっしゃっていた。そこから何かやろうと動ける人たちはよいが、こうした場に出てこない人たちの中にも「役に立ちたい」と思っている人が一定数いらっしゃる、その方たちへのアプローチをどうすればよいかという話で盛り上がった。趣味のサークルの方も、趣味を活かして、ほかの人たちと関わることもやってみたいとおっしゃっていた。その後の話になるが、今回報告者として初めて参加された2つのグループの方が、チラシの件などで社会教育課にご相談に来られた。このようにあきしま会議に出たことによって「動いてみよう」という気持ちになれたのであれば、よかったと思っている。

委員 私も参加者の方が、さっそくご紹介した方と連絡を取ってみたというご報告をいただいたり、私の活動の場に訪ねてきてくださった参加者がいたり、今回の参加者には活動したいと思っている人が多く集ったように感じた。その後も続いて動いているとよいと思うし、支援もできるようになればと思う。

**(4) 令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について(2/18)(資料3)**

議長 2月18日に行われた理事会についてご報告したい。来年度の総会の時には昭島市から3名が表彰される予定だ。全国社会教育委員連合より、機関誌「社教情報」の値上げについて3月の総会で報告があるとのことだ。

4月18日(土)午後1時より定期総会が開催される。来年度、昭島市は副会長市および関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会の副実行委員長となる。

委員 先ほど機関誌の値上げについて話があったが、どのくらいの社会教育委員が購読しているのかについて、確認をお願いしたい。また、意見として内容の刷新をお願いしたい。

**(5) 成年年齢引き下げによる成人式の開催年齢について(資料4)**

※全国的に20歳を対象とする成人式が根付いていることから、これまでどおり20歳になる方を対象に成人式を実施していく。また、名称については変更を含め今後検討していく。

次回

3月19日(木)

4月23日(木)